

言葉の耳袋 (8)

俳句はカメラ : 日本語を探す遊び

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA 顧問 教育アドバイザー

張江 幸男

滞在期間の長短にかかわらず、海外に住む子ども達への日本語の教育は保護者にとって大きな問題です。このコラムでは、海外・帰国子女教育の大ベテランが「海外での日本語教育」へのアドバイスを語ります。

【1】おどろき

K子さんは、ブラジルのアメリカンスクールに、1年生から6年生まで在学した。中学受験で運よくO女学園に入学した。入学後、新入生全員を対象の国語の試験があった。採点后、職員室にどよめきの声が上がった。なんと、小学校時代を外国で過ごしたK子さんが最高点だったからだ。どんな勉強をしていたのかを尋ねたが要をえなかったので、親に来校を願い、ブラジルでのK子さんの国語の勉強について訊ねた。

【2】二つの試み

あらたまって聞かれても、効果的な勉強法は答えられなかった。重ねての問いに、しいてあげれば次の二つでしょうかと答えた。

(1) 演技つきの解答

お父さんが、夜の間にA4版1枚に、国語と算数の問題を手書きで出していく。二人の娘はアメリカンスクールからの下校後、おやつを食べるとこの問題をしあげた。おかあさんは答え合わせをしたが、新出の語彙を使って短文を演技付きで紹介した。このときのお母さんの大げさな所作が可笑しくて大笑いをした。だから、娘たちは毎日、この時間が待ち遠しかったと言う。両親の毎日の努力が結実したのでしょうね。

(2) 家族句会

もうひとつは、お父さんの発案で月1句会開いたことである。子どもたちは「そんな年よりくさいことはいやだ!」と反対したが、「将来、きっと良かったと感謝するよ」と断言した。張江もお父さんと同じ考えで、台北でもニューヨークでも、子どもたちに俳句作りを奨励したが、国語力を伸ばすのにいくつもの利点があることを痛感した。

【3】俳句は文字で写すカメラ

台北に駐在したとき、飛行機を降りた瞬間から、空気、景観、人々の服装、建物、商品、歩き方、言葉など、すべてが珍しく、アッこれを記録したいなと思いました。見たり、感じたり、強く思ったりしたことを記録したいなと思いました。そうだ、カメラのように、どんどん俳句を作っていこう。パチッとカメラで撮るように俳句を記録していこうと思いました。どこへ行くにもメモ帖をポケットに入れ、目にとまったり、強く感じたりしたとき、すぐに5・7・5で書き込んでいきました。

ところが、「地球に学ぶ」24号〈海外子女教育振興財団刊〉で、俳句選者の鷹羽狩行さんが、同じようなことを書かれていたのです。読み進めるごとに、そうですね!と、大仰に頷いたものです。ご紹介しましょう。

日本にいるときには考えてもみななかったことで、困ったり、外国生活ならではの楽しい出来事に出会ったこともあるでしょう。そんなときの気持ちを記録しておいたら、きっとよい思い出になるに違いありません。カメラを用意するわけにもいかない一瞬の出来事をとらえるのに、じつは俳句が力を発揮します。書き留めておかなかつたらすぐに忘れてしまいそうな心の動きも、一句にまとめることでそのままにとどめておくことが可能です。俳句は世界一短い詩ですが、すぐれた記憶装置であるともいえます。

【4】俳句の作り方

さて、俳句がカメラのはたらきをすることがわかりましたが、なにも知らない子どもにどのように教えたらよいでしょうか。お父さんもお母さんも一緒に作ってみてください。

それぞれの子どもが思っている素直なきもち、本当のきもちを、俳句という5・7・5の言葉にすることができたら大成功です。

俳句を作ってみたいことが見つかったら、5・7・5のことばになるまで、指で教えることを教えたり、声を出して何度も言うてみることを教えたりして、根気よく言葉を工夫するのを待つことです。

5・7・5という言葉のリズムは、日本人が昔から歌にしてきたリズムです。注意書き、道路の交通標語、コマーシャルのことば、流行っている歌の歌詞も良く聞いてみると、5・7や7・5、のことばがよく使われます。リズムのあることばは、わかりやすく、覚えやすく、ひとの心に響きます。

祇園精舎の・鐘のこえ

校庭で・遊んじゃいけない・学校長

あなた変わりは・ないですか

子ども俳句で一番大切なことは5・7・5というリズムあることばにすることでしょう。5文字・7文字・5文字のリズムでことばを使うようになれば、世界で一番短い「俳句という詩」が作れるのです。